

平成 26 年 7 月 29 日
福祉部高齢社会対策課

第 6 期（平成 27～29 年度）練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
における検討課題の意見整理
「高齢者の社会参加の促進」

【総論】

高齢者が安心して暮らせる地域社会の構築のためには、高齢者の生きがいづくりや外出機会につながる活動の活発化に加え、高齢者自身が地域包括ケアシステムの担い手として社会参加していくことが望まれる。また、積極的な社会参加活動は、健康維持や介護予防につながることを期待される。

高齢者が中心となった地域の支え合いの推進には、自身の能力を生かした取組だけでなく、意欲のある者が気軽に参加ができるような多様な機会を提供することが必要である。生活支援コーディネーター等の枠組みを積極的に生かし、既存の活動者や団体等と連携しながら、“練馬区らしい”地域にあった仕組みづくりを検討すべきである。

地域活動への参加をはじめとする多様な社会参加を促進するためには、地域福祉パワーアップカレッジねりまやシルバー人材センター等の既存の活動（事業）の積極的な活用とともに、多くの高齢者を対象とした参加しやすい活動が数多く生み出される地域づくりを進めていく必要がある。

また、高齢者が地域活動等に必要な情報等を手に入れることができるよう、情報提供を充実する必要がある。

【施策別の提言】

1 高齢者が中心となった地域の支え合いの推進

(1) 高齢者の社会参加・生きがい就労支援においては、多様な考え方があることを考慮し、それぞれの人の希望や意欲に応じた社会参加につなげていく視点も必要である。

(2) これまで培った知識や経験等を持っている専門職として高齢者をどのように活用していくかということと、地域の力をどのように高めていくかという2つの大きな枠組みが必要である。地域の力を高めていく際には、シルバー人材センターや既存のボランティア活動との相違点を十分に整理し、単にニーズと資源のマッチングだけではなく、ニーズを通して地域づくりを行うような積極的な活用が必要である。生活支援コーデ

ィネーターの枠組みを生かし、既存の活動者と連携しながら、練馬ならではの仕組みをつくる必要がある。生活支援コーディネーターの検討に際しては、どのような圏域で、見守りを行う地域組織を立ち上げるかという課題とあわせて検討する必要がある。

- (3) 社会参加の推進とボランティアは、まちづくり、地域力の問題である。横のつながりを生みだすには、練馬区全体のまちづくりや地域力向上をめざす施策の全体像、その中での高齢者の社会参加の位置づけが見えるようになっている必要がある。参加しやすい仕組みづくりとして、ボランティア時の任意保険の用意やいわゆる有償ボランティアの拡充も検討する必要がある。
- (4) 元気な高齢者については自助を優先し、次に共助、公助となるべきである。社会参加が健康維持や介護予防につながるという考え方に重点を置く必要がある。

2 地域活動への参加の促進

- (1) 地域福祉パワーアップカレッジねりまは、社会参加に取り組む人材育成を担っており、効果的な事業である。卒業生が1つの核として、練馬区の福祉分野でのコミュニケーションを図り、地域で様々な活動を展開していくことが期待されている。地域で活動をしている者と行政との交流、各活動団体の交流を含め、立体的な交流を図ることが可能であり、今後さらに進化させながら、活動を広げていくべきである。
- (2) 平成27年度に開設する「ねりま区民大学」など、区が実施する多様な学びの場を高齢者が活用できるようにする必要がある。

3 多様な社会参加の促進

- (1) 練馬区シルバー人材センターでも、ボランティア事業を行っている。就業機会の創出だけでなく、シルバー人材センターの積極的な活用を検討する必要がある。
- (2) 高齢者の孤立、孤独、引きこもりの防止という観点では、ボランティアや地域活動の担い手としての活動に限定せず、社会参加促進策の一つとして、敬老館や高齢者センターなどの拠点を活用し、多くの高齢者を対象とした参加しやすい事業の充実を図るべきである。